

古典の中の歌びとー常陸の風土をうたう

講師 瀧口 泰行（古典学者、常磐短期大学名誉教授）

日本の歌の歴史を考えると、古風土記類に残された歌は特別な貴重性をもっています。それは万葉集よりも古く採集されたことも重要ですが、それぞれの地方で実際に歌われていた当時の様子をそのまま記録していることです。

当時の多くの人々によって親しまれ、長く愛唱されていただけでなく、その地で暮らしを営む中での自然や神々に感謝する心が表現されているのです。しかも、どれほどさかのぼって歌われてきたのかはわかりませんが、記録報告された時（奈良時代初期）には、既にいかほどかの歳月を経ているわけです。古風土記類には23首ほど記録されていますが、幸運なことに常陸の国には11首も記録され残っています。

今回は、風土記の歌謡を中心に、古事記や万葉集の常陸の国とかかわる歌を鑑賞してみましよう。

講義日／ 4月18日（土）

時 間／10：00～12：00

回 数／1回

受講料／1,100円（税込）

会 場／水戸教室